



「しばた」
を知って楽しみ、
「新しいしばた」
の町をつくる新聞

原料はすべて
自然由来です

高橋農園の
手作りシヤム

高橋農園
(新発田市緑山1314)
TEL.0254-29-2287
http://takahashinouen.com/

600円税別
●レクチャ
●りんご ●桃

FRUIT KOBOSIBATA
Fresh fruit and vegetables

シバタ健康ファーム 検査

ジャムやジュース販売中！
ご贈答に人気です。

分かりやすい歴史映像で 歴史図書館が奨励賞受賞

歴史の専門家がほとんど手弁当で制作、
最少の経費で最高の作品を作った

新発田市立歴史図書館が独自に制作した「ガイダンス映像」が令和元年度のNPO法人地域文化アーカイブス主催の第17回全国地域映像コンクール梶原拓記念奨励賞を受賞した。地域文化アーカイブスは地域文化をデジタル化・映像化して、市民や来訪者に広く伝えるための事業を推進している団体だ。

「ガイダンス映像」は新発田市と新発田藩領の歴史が一目で理解できるように編集された映像で、平成27年度の「歴史図書館整備計画策定委員会」で議論され、翌28年度の「整備計画」に明記された。武蔵野さんなど歴史館等の視察、研究を経て、内容と制作方法が検討された。

「ガイダンス映像」は通史編(新発田の歴史物語／7分40秒)・城編(新発田城とその城

下町／9分33秒)・産業編(蒲原平野の開拓／9分49秒)・人物編(新発田の人物物語／10分・堀部安兵衛武蔵／7分16秒)の5本で、当時の鈴木秋彦整備室長および鶴巻康志副室長が資料収集・台本執筆にあたり、田村豊隆氏が著作権関係の処理や工程管理にあたり、ほとんどを職員が手作りし、制作費を極力抑えた。新発田藩主の溝口侯が一度も国替(領地の変更)にあつたことなど、史料を大切に保存していたことにより、映像の材料が豊富に揃っていたことで充実した内容となった。

新発田の豊富な史料と画像を使い、
分かりやすい抜粋の入門映像

通史編は2万6千年前の旧石器時代の坂ノ沢遺跡(川東)から始まり、縄文時代の二太子遺跡(宮倉)、飛鳥時代を経て平安末期の荘園時代、鎌倉時代の佐々木盛綱とその一族(加地氏・新発田氏・竹俣氏)を、紹介。その後新発田藩主・杉原勝の戦い、溝口秀勝の入封と新田開発、沼垂藩を中心とした水上交通、藩校道学堂・私塾積善堂などの学問奨励、明治の歩兵第十六聯隊と白壁兵舎、加治川長堤十里の桜、羽越本線開通、木崎村小作争議、市制施行と合併などを取り上げている。

城編では国指定重要文化財新発田城と城



ガイダンス映像より、
縄文土器

人物編の「新発田人物物語」では溝口秀勝侯が新発田藩主になるまでに始まり、教育のまち新発田の礎となった藩校道学堂とともに、私塾積善堂を開いた丹羽伯弘を取り上げている。実業家・大倉喜八郎は丹羽伯弘の息子に学んだことを紹介し、その事業を編年的に詳述している。帝国ホテル・鹿鳴館・大倉商業学校・大倉集古館などの写真、五階菱の紋付羽織を着た写真が印象的だ。

人物編の「堀部安兵衛武蔵は史実に基づき、生い立ちから江戸出府、堀内道場、高田の馬場の果し合い、赤穂藩出仕、江川城松之邸下り、吉良邸討入、切腹までを解説している。歴史図書館所蔵の浮世絵が美しい。最後は武蔵会主催の長徳寺での「義士祭」で締めくくられている。

「大変よくまとまられている」と
選評で高評価。新たな問題も提起
地域文化アーカイブス選評を掲載する。

「新発田の歴史」から「蒲原平野の干拓」まで5部構成の本映像は、館内でのプロデュース・編集・制作されたとの事、大変よく纏められている。新発田の地が古書にある「越」の国から「越後」の国と呼ばれるようになったのが飛鳥時代であったと教えられ、長年の興味に解が与えられた。この地における歴史上重要な人物は、地頭となった佐々木盛綱や尾張出身で信長に派遣された溝口秀勝であり、溝口家は明治の廃藩置県まで、270年に及び統治したとある。また堀部安兵衛武蔵が当地出身であったことも興味深かった。また、この地の「義士祭」に参加する少年少女は敵討ち「助太刀」とか「赤穂浪士の討ち入り」にどのような知識と考え方を持っているのか、知りたいところでもある。

この地には縄文時代から人が住んでいたというが、農業地となるための治水事業に開いて大変な努力がなされたことも映像からよく理解される。木曾、長良、揖斐川の三川下流で育った私は、小さい時から、治水にまつわる話をたくさん聞かされたこともあって、人ごとは思えない感想を持った。

堀部安兵衛への注目は当然と言えは当然だが、少年剣士たちへの理解に言及していることは嬉しい限りだ。ガイダンスとは入門的な指導のことを言う。これから始まって新発田に住む人々や子どもたち、そして来訪者たちに新発田の歴史や長きに興味を持ってもらうことを期待する。

なお、「ガイダンス映像」は歴史図書館の入り口のすぐ左側に設置されたモニターで見ることができ、「新発田市立歴史図書館ガイダンス映像」で検索すると、ホームページ上でも閲覧できる。

コラム

大寒から立春へ



新発田産のイチゴ

▼1月20日は二十四節季でいう「大寒」(だいかん)だ。寒さが年間一番厳しい日とされる。ところが外気温は摂氏6度、それほど寒くはなく、いつもあるはずの積雪はない。60年も生きてきて初めての経験だ。▼1月20日は毎週末に雪が降り、雪除けで腰を痛めた。昨年は井戸を掘ってもらって簡単な消雪パイプを設置した。それなのに今年一度も稼働させていない。葉なことは楽だが、何だか居心地が悪い。この分では、今夏は水不足になるのではないかと。▼専門家によると、もともと加治川水系の耕地面積などで必要な水量は4万km³とされるが、内の倉敷の容量は最大で2万4千km³。小雪や日照りが続けば足りなくなるのは自明である。国は現在「加治川二期工事」を行っていて、完成すれば水不足の心配はないといわれている。心配だ。▼一方、オーストラリアの山林火災は半年を経てもまだ続いており、消失面積は10万m²を超えた。北海道の面積は約8万3千m²だから、とてもない規模だ。降水量が少ないと平均気温も過去最高を記録し、強風で樹木がこすれての自然発火だという。異常気象は常態化して、最近では気候危機という。二酸化炭素の抑制は喫緊で最大の課題だ。大寒と敵(かたき)のこころ対ひたり。▼本来、こういうものだからこ、次の「立春」が嬉しいのである。

城下町しばた全国雑煮合戦 苦節16年の道楽、初の優勝

新発田の正月の風物詩となった城下町しばた全国雑煮合戦は16回目を迎えた。

1月12日(日)、好天にも恵まれた新発田市役所ヨリネスびたと周辺商店街にはお馴染み富士山の白く雑煮など県外・県内から42のブースが出店、2万5千人主催者発表の来場者でにぎわった。

今年の特徴は来場者の出足が早かったこと。開始の午前10時には前回・前々回優勝のサトウの切り餅新発田工場のブースには2,277人が列をなし、予定販売数の500食が午前中になくなることは必至の勢いだった。このイベントを企画した元祖雑煮

合戦が出品した肉祭り雑煮にも100人余りの行列ができた。販売も好調のようで例年のようにカラフルな衣装に身を包んだスタッフが出前をする余裕はなかった。

優勝は人気投票と審査で決まる。餅は新発田の餅米で作られている。雑煮合戦は平成16(2004)年に新発田城三階橋・辰巳橋が復元されたことを記念して、新発田商工会議所青年部が主催、新発田市・新発田商工会議所・新発田市観光協会が共催している。

当初は来場者による投票で優勝(征夷大将軍を決めた)が、最近投票と審査員

による審査によって優勝を決めている。投票は一位に最大20点が与えられ、審査員は25人で味に最大75点、独創性・雰囲気最大5点、合計100点での審査。



元祖雑煮合戦のブース



恒例の場まさ



御免町小の発表



魚喜久の熱発田雑煮



「サトウ食品」も3連覇を逃す。雑煮合戦終了の午後3時、ステージ前では前評判の高かったサトウ食品の面々と揃いの法被の村上商工会議所青年部が居並ぶ中、結果発表と表彰式が行われた。それもそのはず、サトウ食品は連覇、村上商工会議所青年部は合戦最多の4回の優勝を誇る。しかし、今回は3位が74ポイントでサトウ食品の「すき焼き風鶏ささみ雑煮」2位が84ポイントで九龍の牛肉三昧雑煮、優勝は87ポイント

で屋台の「安兵衛ラーメン」雑煮だった。道楽さんは優勝の弁として「16年参加して初めての優勝、これからは精進して来年もデフィニングチャンピオンとして頑張りたい」と語った。

なお、新発田ゆかりの郷土安兵衛武蔵が誕生した5月にちなんで、5位入賞の「A北越後女性部の「あちゃん」の北越後雑煮」には武蔵賞として赤銅の日本刀(模造)が贈られた。味の評価が高かった割烹魚喜久の「新発田雑煮料理屋」では「ダシと具材にこだわったオーソドックスな新発田の雑煮」だったが、惜しくも入賞を逃した。最大の個数を販売した元祖雑煮合戦のメンバーは悔しさをにじませていた。

多くのボランティアが下支え。高校生や会議所女性部も大活躍。イベントに色を添えたのは、新発田商工会議所・新発田商業高校・敬和学園大学・コリアルコ・コフにいがた・栗山米業・作業所あゆみの物販ブースだ。新発田商業の各種「ザート」敬和学園大学の甘酒が人気で人だかりができていた。

恒例の開運餅まき、宗徳流道場による新年初釜茶会、ダンスユニットのステージショーなどもイベントを盛り上げた。目についたのは御免町小学校の6年生が地元のお店や職人を回ったキャリア教育の発表会だった。水野シト屋・おたネーム・岩淵畳店・泉屋染物店など、城下町しばたに伝わる職人芸を取材・編集し、分かりやすくプレゼンテーションして感動した。

また、裏方として容器的リサイクル作業を引き受けていた新発田中央高校野球部の皆さん、黙々とテーブルの清掃などに精を出していた新発田商工会議所女性部の皆さん、この方たちの下支えがなければ雑煮合戦は成り立たない。もちろん、新発田商工会議所青年部の皆さんもボランティアでの参加だ。雑煮合戦が1昨年、地域活性化センターから「ふるさとイベント大賞」優秀賞を受賞した所以である。

蟻塚税務会計事務所 新発田市大栄町 7-1-6 TEL.0254-23-2222	茨木建設(株) 新発田市長尾 284-1 TEL.0254-23-6651
飯豊電設工業(株) 新発田市豊町 2-18-5 TEL.0254-24-2134	新発田ニユー プラザホテル 新発田市諏訪町 1-9-29 TEL.0254-26-3131
(株)伊藤組 新発田市島瀬 1273-1 TEL.0254-22-4176	新発田建設(株) 新発田市富塚 1942 TEL.0254-27-5711
(株)イノウエ 新発田市新栄町 1-3-2 TEL.0254-22-4056	島津印刷(株) 新発田市富塚 1419 TEL.0254-27-2101
(株)岩村組 新発田市大手町 4-3-21 TEL.0254-20-5550	(株)新和組 新発田市米倉 1287 TEL.0254-28-5011
SODデザイン 高橋智志 新発田市新栄町 1-13 スタイルビル2F TEL.0254-24-5121	大進電業(株) 新発田市佐々木 1895-9 TEL.0254-21-5000
小野寺税務会計事務所 新発田市大栄町 2-7-7 TEL.0254-23-3497	(株)大通 新発田市舟入町 1-12-5 TEL.0254-26-1191
(株)下越道路 新発田市新富町 1-1-5 TEL.0254-23-2296	新潟ファームサービス(株) 新発田市五十公野 4104-1 TEL.0254-20-3828
(有)クサカベモータース 新発田市五十公野 4836 TEL.0254-22-6311	フジマ舗道(株) 新発田市島瀬 4197-3 TEL.0254-26-5030
株こじまホールディングス 新発田市中央町 3-5-12 TEL.0254-26-3381	扶桑畜産(有) 新発田市米倉寺島路 4666-1 TEL.0254-26-5136
小林税務会計事務所 新発田市中央町 5-4-27 TEL.0254-22-2705	山田建設(株) 新発田市大友 3856 TEL.0254-25-0700
小柳産業(株) 新発田市八幡新田 416 TEL.0254-22-7010	(株)安田組 新発田市豊町 4-3-39 TEL.0254-24-1761

介護老人 福祉施設 陽だまり苑 新発田市岡田 1746-1 TEL.0254-20-3800	(株)オオヌマ 新発田市五十公野 3969 TEL.0254-22-2223
複合型 福祉施設 コンフィ陽だまり苑 新発田市諏訪町10-38 TEL.0254-24-1111	(有)アミックス 新発田市緑町 2-6-45-7 号棟 TEL.0254-20-7841

おまや
新発田市御幸町1丁目1-1
☎(0254)22-2102(代)

多奈可や
新発田市稲荷岡 2066
☎0254-41-2013

堀部安兵衛ファン待望の出版 / A4・オールカラー・84頁

武庸会百周年記念誌

新発田人なら一家に一冊

頒布価 1000円

- ◆堀部安兵衛略伝
- ◆堀部安兵衛の家紋
- ◆中山家と長徳寺
- ◆義士堂の天井画
- ◆元禄赤穂事件
- ◆安兵衛文庫
- ◆堀部安兵衛武庸家系図
- ◆武庸会百年の歩み
- ◆義士堂の木像とその由来
- ◆芸能にみる安兵衛と忠臣蔵
- ◆安兵衛観光マップ
- ◆堀部安兵衛資料など

頒布所：新発田市観光協会 新発田市諏訪町 1-2-11
TEL.0254(26)6789

高齢者や障がい者を助けるため 「個別支援プラン」作成を加速化

昨年12月13日(金)午後7時から、五十公野・七軒町公営で「災害時の助け合い研修会」が行われた。第一部では、いざがた災害ボランティアネットワーク理事長・李に鉄さんが災害ボランティアとして被災地各地で体験したことを基に、災害への備え、適切な避難方法、避難所の在り方などを解説した。強調したのは「まずは自分を守る」と「共助助け合い」の重要性だ。

第二部では市の市民まちづくり支援課長の挨拶に始まり、地域安全課の職員が台風19号を踏まえて、以下の提案をした。それは災害発生時に自力で避難できない人、つまり避難時に他の人の支援を必要とする人(一人暮らしの高齢者、障がい者、要介護認定者、外国人など)避難行動要支援者とよむを助けるために、まず「個別避難支援プラン」を作成するということだ。

「個別避難支援プラン」では個人別の事情を把握したうえで、災害時に誰がどのように救いたし、どのようにお世話をするか、事前に具体的に立案し、いざ事があれば確実に避難させ、救助しようというものだ。新発田市には避難行動要支援者が1万2千500人ほどいて、そのうち避難支援者(自治会役員や民生委員、自治会の災害対応担当者・自主防災組織など)に名簿を提出することに同意した方、2千901人の名簿が渡されている。その方々から話を聞いて必要な支援方法と配慮すべきことを明確にする。これまでの作業をモデル地区2地区で今年度中に行うという。

2地区は市街地の「緑町1・3丁目(564世帯・対象者44人)、周辺の五十公野・七軒町(1万8千世帯・対象者6人)である。「個別避難支援プラン」作成の過程で新たに対象者の掘り起こしが進むことは織り込み済みである。

まずは自主防災組織作りを進めて、避難・救助の受け皿を作り上げる

平成23(2011)年3月に発生した東日本大震災と津波の甚大な被害を受ける形で国の「災害対策基本法」が改訂され、避難行動要支援者名簿の作成、②支援関係者への名簿提供、③避難行動要支援者の個人情報(住所、氏名、年齢、性別、障がい種別、避難時の連絡先など)が定められた。平成25(2013)年8月には内閣府から、「支援者の避難行動支援に関する取組み指針」が示され、④避難支援者の安全確保が重要で、全力で助けようとするが、助けられない可能性もあることを理解してもらおうと明記した。雲仙普賢岳の火砕流でも東日本大震災の津波でも避難を呼びかけていた多くの消防団

員が命を落としたことは記憶に新しい。

熊本地震で大きな被害を出した益城町では、地域防災計画を立上げておらず、当時の防災担当者はそれが被害を拡大したと悔やんでいたが、新発田市には既に「地域防災計画」がある。この「計画」でも「指針」に沿って市の責務として避難行動要支援者名簿の作成および要支援者個別プランを自主防災組織等と協力して策定すると定めた。しかし、当時は自主防災組織の組織率が低かったため、まずは各地域に自主防災組織を立ち上げることを先行させた。助けけるべき人の名簿があっても、助けける人がいなければ、助けける方法が決まっていなければ助けられない。

その結果、新発田市の自主防災組織率は平成23(2011)年12月末で64・7%だったのが、平成30(2018)年12月末で87・2%と90%目前まで迫った。なおこの時点で国平均は85%、県平均は83%だった。ようやく「要支援者個別プラン」作成の受け皿が整いつつあるのだ。市の担当課・関係各課の努力の賜物であるが、自治会連合会の協力があることでその整備率といえる。

モデル地区で「個別避難支援プラン」作成今年度以降、全市域に広げることを目指す
昨年7月日本NPOセンターという団体がモデル事業として、要支援者を包摂した防災・減災プログラム「のぞみ」の対象者を募集していることを知った新発田市では、さっそく災害時の個別避難支援プランの作成を事業内容として応募することを関係者と協議の上、決めた。事業に関する経費一千万円は中間支援組織である「新発田地域づくり支援センター」に交付される。新発田市では既に2ヶ所の自治会等が「個別支援プラン」を作成していたが、これは可能な限り全自治会へ勧誘することが望ましい。

そこで今年度は日本NPOセンターの補助金を使って、モデル地区を4地区選定して「個別避難支援プラン」作成の過程を明確化・明文化することとした。併せて「個別避難支援プラン」作成に効果的な方法を「新発田地域づくり支援センター」のコーディネートで、次年度令和2年度以降に「新発田地域づくり支援センター」が中心となって、各自治会に対する支援メニューとして作り上げ、市内全域で個別避難支援プラン作成を目指すこととしたのである。当然まちづくり支援課・地域安全課・社会福祉課・高齢福祉課など市の各課だけでなく、社会福祉協議会や自治会連合会との緊密な連携が必要だ。

住民が抱える問題は多種多様、個別の支援方法と共通の解決方法がある
五十公野・七軒町で行われた「災害時の助け合い研修会」には関係者の他住民約40人が参加、第三部では防災担当者や講師の李に鉄さんが住民一人ひとりの考えを聞き、個々の相談に乗り、意見交換した。

また、この中で動けない高齢者や認知症患者を抱える人、人工呼吸器を装着しているために電源の心配をしている人、常備薬の心配をする人、非常用発電機の燃料の確保について質問する人、乳児がいるのでミルクの心配をする人、避難所の広さに疑問を呈する人、家族に障がい者がいて避難所の階段やバリアに対する対応に悩む人や福祉避難所の開設について言及する人もいた。問題は千差万別で、個別の問題もあれば共通の問題もあった。

災害に当たっては、自助・共助・公助が必要だが、市や消防の担当者自身も被災者であり、公助が足りなくなると、届いても時間がかかることは阪神淡路大震災で学んだ。そのとき力を発揮するのは「近所力」である。今後、着実に事業が進むことを望む。

新発田市では、さっそく災害時の個別避難支援プランの作成を事業内容として応募することを関係者と協議の上、決めた。事業に関する経費一千万円は中間支援組織である「新発田地域づくり支援センター」に交付される。新発田市では既に2ヶ所の自治会等が「個別支援プラン」を作成していたが、これは可能な限り全自治会へ勧誘することが望ましい。

そこで今年度は日本NPOセンターの補助金を使って、モデル地区を4地区選定して「個別避難支援プラン」作成の過程を明確化・明文化することとした。併せて「個別避難支援プラン」作成に効果的な方法を「新発田地域づくり支援センター」のコーディネートで、次年度令和2年度以降に「新発田地域づくり支援センター」が中心となって、各自治会に対する支援メニューとして作り上げ、市内全域で個別避難支援プラン作成を目指すこととしたのである。当然まちづくり支援課・地域安全課・社会福祉課・高齢福祉課など市の各課だけでなく、社会福祉協議会や自治会連合会との緊密な連携が必要だ。

住民が抱える問題は多種多様、個別の支援方法と共通の解決方法がある
五十公野・七軒町で行われた「災害時の助け合い研修会」には関係者の他住民約40人が参加、第三部では防災担当者や講師の李に鉄さんが住民一人ひとりの考えを聞き、個々の相談に乗り、意見交換した。

また、この中で動けない高齢者や認知症患者を抱える人、人工呼吸器を装着しているために電源の心配をしている人、常備薬の心配をする人、非常用発電機の燃料の確保について質問する人、乳児がいるのでミルクの心配をする人、避難所の広さに疑問を呈する人、家族に障がい者がいて避難所の階段やバリアに対する対応に悩む人や福祉避難所の開設について言及する人もいた。問題は千差万別で、個別の問題もあれば共通の問題もあった。



七軒町公営室に集まった地域住民の方々

越後姫マルシェ

2/28(金)~3/1(日)

●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480
☎0254-20-2229

●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14
☎025-274-2229

●白根店 9:00~19:00
新潟市南区能登406-2
☎025-372-2222

●新発田店 9:00~18:00
新発田市荒町1480
☎0254-20-2229

●松崎店 9:00~19:00
新潟市東区新松崎1-6-14
☎025-274-2229

●白根店 9:00~19:00
新潟市南区能登406-2
☎025-372-2222

小林 かいち と

日本のアール・デコ展

2019年 10/29(火)→3/1(日)
2020年 10/29(火)→3/1(日)

開館:午前9時~午後5時
(入館最終受付は午後4時30分まで)

休館日:毎週月曜定休
(祝祭日の場合は翌火曜)

※年末年始(12/29(日)~翌年1/3(金)まで休館)

入館料:一般・大学生500円
高校生200円
小・中学生100円
(税込)

「日本のアール・デコ」の代表的画家・小林かいち。そのデザインは、華やかな女性・トランプなどモチーフの中に、嘆きや秘めた想いを感じさせる詩的な構成、斬新な配色によって、モダンガールの心をとらえました。

主催:新発田市・落谷虹児記念館
協力:セガコレクション、新潟ハイカラ文庫

KOBAYASHI KAICHI

KOJI FUKIYA MEMORIAL MUSEUM OF ART
落谷虹児記念館
新発田中央4丁目11-7 電話&FAX 0254-23-1013

謎の絵師

動いて体感！
楽しく リズミカルに 脂肪を燃やす！！

エアロビクス



マシンで
鍛えて
効果倍増！

少人数制トレーニング



● 通い放題 月額 5,000円

身も心もリフレッシュ！

さあ スタート！
初回に限り **無料体験**
キャンペーン実施中
お気軽に
ご参加ください

寒い冬こそ有酸素運動で余分な脂肪を落とす！
鍛えて冬の身体は変わる！冬の「寒さ」は燃えにくい脂肪細胞が燃えやすい脂肪に変わる季節です。

● 毎週 火曜日・金曜日 18:15～(60分)
● 月額 4,000円 (通い放題) 1回 1,000円
トレーニング会員様は追加料金 2,000円/月でご利用いただけます

ピュアorange

まずは
お電話ください！ ☎ 20-8826

新発田市中央町5-4-2

月～金 10:00～12:00 13:30～19:30
土 10:00～13:30 (日曜・祝日休館)



新たな時代との出会い

明治維新と 新発田



菊花校章

冬季
通常展

1階展示室
入場 無料

令和2年
1月11日～3月29日

開館：9:00～17:00

休館：月曜(祝日開館・翌日休館)

嘉永6(1853)年、ペリー率いるアメリカ東インド艦隊の艦船4隻の来航が、江戸時代の幕引きを告げました。その後大政奉還・戊辰戦争を経て、明治4(1871)年、廃藩置県が行われ新発田藩は新発田県となります。この新しい時代と出会う18年間の新発田藩の姿を現存する資料から多角的な視点で解説します。

新発田市立歴史図書館

新発田市中央町4-11-27 ☎0254(24)2100



制服

中・高制服の
リサイクル



のリサイクル
にご協力を

小中高の入学時に多額なお金がかかり、困っている人がたくさんいます。使わなくなった制服の寄付をお願いします。また、気軽にご利用ください。



対象校

市内全6高校
本丸中・第一中・猿橋中

対象品目

制服、ブラウス、セーター、ベスト、柔道着、通学バック
(小学校入学式のフォーマル服も扱います)

こちらで受け付けています！！

バルComfy陽だまり苑

受付時間／
毎日 8:30～17:30
(新発田市中央町5丁目924-1)

こども食堂

▶ 長徳寺 受付時間／毎週土曜日 10:00～14:00
▶ 多田宅 受付時間／毎週日曜日 10:00～14:00
(本丸中学校門前)

☎090-3047-8732

お問合わせ・お申し込み
フードバンクしばた事務局 土田